

「民主党目を守る議員連盟」設立趣意書

人間は外界からの情報の 8 割を視覚から得ていると言われており、視覚障害は日常生活機能およびQOLの損失につながります。わが国には視覚障害を持つ患者が約 164 万人いると推定されており、高齢化社会の進行に伴って今後更に増加することが見込まれます。視覚障害を持った方々への国としての対応は当然必要ですが、視覚障害の疾病負担は医療費にとどまらず、雇用の低下、ケアをする家族の負担など多大なる負荷をもたらします。いったん視覚障害に陥るとこれを治療・回復することが難しいケースが多く、予防や早期発見のための健診が大変重要です。眼科健診プログラムに要する費用は低額であり、成人を対象とした定期的な眼科健診プログラムにより視覚障害の予防を行うことは、国民福祉にとって合理的なことといえます。

また、眼科健診プログラムは、眼自体の疾患・障害の予防に役立つだけでなく、成人病やメタボリック症候群の早期発見・早期治療に極めて有効です。例えば、眼底写真を撮影することにより、糖尿病・高血圧・動脈硬化の予兆を発見することができ、脳梗塞・狭心症・心筋梗塞といった疾患の予防にもつながります。

しかし、現状では公的な眼科健診プログラムは未整備であり、一部の自治体で実施されているにすぎません。しかも、健診の対象および方法は実施自治体によってまちまちであり、統一的な指針が存在していません。

公的な眼科健診プログラムを全国的に導入することにより国民の「目を守る」ことは、医療費および社会的なケアのためのコストの低減、さらに国民全体の幸福と安全につながる「投資」であると考え、医療関係各団体などの協力のもと、これを推進するために民主党目を守る議員連盟を設立いたします。

議員各位におかれましては、是非ともご参加を賜りたく、お願い申し上げます。

平成 22 年 11 月吉日

【呼びかけ人】中井 治 藤村 修 城島 光力 三井 辨雄 山井 和則
櫻井 充 樋高 剛 広野ただし 笠 浩史 山根 隆治
階 猛 梅村 聡 山崎 摩耶 吉田 統彦